

青年・スポーツ局 副局長

ハジ・モハマド・ロスファジラ・ビン・ハジ・ユスリー 氏

【視察】市内視察（ナイトマーケット、JENESYS 招へい同窓生との交流）

1 月 30 日（金曜日）

【文化体験】伝統武術：ブンチャックシラット

【交流】各武道の道場訪問（空手、剣道、柔道）

1 月 31 日（土曜日）

【学校交流】ペンギラン・アナク・プトリ・ハジャ・ランダ・サアダトゥル・ボルキア・ルムット中等学校

【ホストファミリー対面式・ホームステイ】

2 月 1 日（日曜日）

【ホームステイ】

2 月 2 日（月曜日）

【視察・文化体験】

オマール・アリ・サイフディン・モスク（通称：オールドモスク）、ジャメ・アスル・ハサナル・ボルキア・モスク（通称：ニューモスク）、ロイヤルレガリア博物館、水上集落

【ワークショップ】報告会準備（渡航成果のとりまとめ、帰国後の活動計画（アクション・プラン）の作成）

2 月 3 日（火曜日）

【報告会】渡航成果・帰国後の活動計画発表

ブルネイ国際空港（バンダル・スリ・ブガワン）より出発

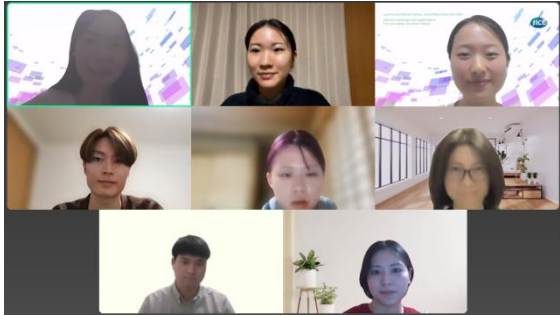
2 月 4 日（水曜日）

成田国際空港到着

2. 記録写真

プレプログラム（オンライン事前学習）

	
2025 年 8 月 26 日【講義】 「ようこそ、日本アセアンセンターへ」	2025 年 8 月 26 日【講義】記念撮影
	
2025 年 11 月 5 日【講義】テーマ関連講義 「ブルネイにおける柔道と武道について」	2025 年 11 月 5 日【講義】記念撮影

	
2026 年 1 月 21 日【参加者説明会】	2026 年 1 月 21 日【参加者説明会】
派遣プログラム	
	
2026 年 1 月 29 日【表敬訪問】 在ブルネイ日本国大使館 菊田 豊 特命全権大使	2026 年 1 月 29 日【交流】 JENESYS 招へい同窓生との交流
	
2026 年 1 月 29 日【表敬訪問】 文化・青年・スポーツ省 青年・スポーツ局	2026 年 1 月 29 日【視察】 市内視察（ナイトマーケット）
	
2026 年 1 月 30 日【文化体験】 伝統武術：ポンチャックシラット	2026 年 1 月 30 日【交流】 各武道の道場訪問（空手）



2026 年 1 月 30 日【交流】
各武道の道場訪問（剣道）



2026 年 1 月 30 日【交流】
各武道の道場訪問（柔道）



2026 年 2 月 1 日【学校交流】ペンギラン・アナ
ク・プトリ・ハジャ・ランダ・サアダトゥル・ボル
キア・ルムット中等学校



2026 年 2 月 1 日【ホームステイ】



2026 年 2 月 2 日【視察・文化体験】
ニューモスク



2026 年 2 月 2 日【視察・文化体験】
水上集落カンボン・アイル



2026 年 2 月 3 日【報告会】



2026 年 2 月 3 日【報告会】集合写真

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 大学生

・ プンチャックシラット

ナショナルチームの皆さんと交流しながら伝統武道「プンチャックシラット」について学び、理解を深めることができました。普段はなかなか得られない貴重な経験であり、まさに武道交流の姿そのものだと感じました。教える・教え合うという関係が実現し、とても有意義でした。プンチャックシラットでは投げ技や蹴り技が取り入れられており、空手と柔道が融合したような特徴を見て取ることができました。

・ 武道交流（柔道）

言葉が十分に通じなくても、武道を通して互いの心を交わすことができました。何の共通点もない他国の方と会話を広げることには限界がありますが、ここでは武道という共通の土台を通じてつながり、そこから互いへの理解を深めていくことができたことが良かったです。

技術を教えてほしいと言われ、実際に指導をする機会もありました。とても温かい雰囲気です。迎えていただき、もっと交流したいという気持ちが強くなりました。

◆ 大学生

プンチャックシラットの交流と空手道連盟との交流が、今回のプログラムの中で最も良かったと感じました。プンチャックシラットでは、まさかブルネイの武道を体験できるとは思っていなかったため、新しいことを習得できたことがとても新鮮でした。また、選手やコーチの皆さまが温かく迎えてくださり、親身になって丁寧に指導していただいたことが本当に嬉しかったです。短時間ではありましたが、多くの技を一通り教えていただき、コーチの方々からもたくさん褒めていただきました。さらに、特別に追加で技を教えてくださいましたことも大変ありがたく感じました。

空手道連盟との交流では、練習は少しきつかったものの、一緒に空手ができたことがとても嬉しかったです。最後には親善試合も行われ、とても良い記念になりました。

◆ 大学生

最もよかったところは学校交流です。自分に取り組んでいた武道がこんなに歓迎されるとは思っておらず、非常に驚くとともに、嬉しくなりました。ブルネイの剣道人口が増えることを祈っております。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 協力団体

日本の学生達からは、終始前向きな関心と積極的な姿勢が見て取れました。ブリーフィングや各種アクティビティの際には熱心に耳を傾け、ブルネイにおける空手トレーニングやユーススポーツの発展について強い好奇心を持っているようでした。総じて、このプログラムはスポーツを通じて相互理解と友好を深める良い機会となりました。

当団体はこれまでも JENESYS プログラムに参加しており、今回の交流を通じて、国際協力やスポーツを通じた文化交流の重要性への認識が一層強まりました。また、このような活動は、特に若いアスリートたちが海外の競技者と自信を持って交流し、自身の経験を共有する動機づけにもなっています。今後も同様の交流プログラムを支援し、若いアスリートが海外からの参加者と触れ合う機会を提供していきたいと考えています。このような取り組みは、友情、文化理解、そしてスポーツが持つ前向きな価値の促進につながります。

◆ 交流校職員

交流の中で最も印象的だったことの一つは、セッション中の学生参加者の反応を見ることができた点でした。多くの学生が、稽古やデモンストレーションを体験する中で、驚きや感動を示していました。その興奮の中でも、学生たちは常に集中し、注意深く、そして礼儀正しく活動に取り組んでおり、武道の精神がよく表れていました。

また、多くの学生が日本についてもっと学びたいという強い関心を示してくれたことも大変励みになりました。彼らの好奇心は、剣道・空手・柔道といった武道だけでなく、日本の生活、教育、文化にまで広がっていました。日本の学生達の笑顔と熱意が、この交流をすべての関係者にとって本当に忘れられない素晴らしい経験にしてくれました。

この交流プログラムを行うようになってからみられる顕著な変化として、学生の間で武道や武道の精神への関心が大きく高まった点が挙げられます。プログラム実施後、剣道の稽古に参加する学生数は大幅に増加し、当初の約5倍にまで拡大しました。

さらに、柔道や空手といった他の武道にも興味を示す学生が複数おり、すでに地域の武道クラブに入会して稽古を始めた学生もいます。

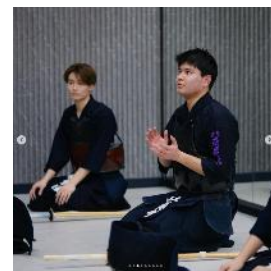
今後も同様の交流が継続され、より多くの学生がこのような経験を通して日本文化や武道への理解を深められることを願っています。

5. 参加者の対外発信（抜粋）、報道記事等



"What we experienced with Fugen Kendo
On January 10, 2026, I had the opportunity to practice with Fugen Kendo.
First of all, having practiced kendo for about ten years, I feel extremely fortunate to have been able to stand on a stage of international exchange like this. I would like to express my sincere gratitude to all the members of Fugen Kendo for their warm welcome and hospitality.

"What we came to realize
Through this experience, it became clear that kendo in Brunei is still in a developing stage. Although the Brunei Kendo Federation exists, the positions of president and vice president are currently vacant. In addition, there is no dedicated dojo to Fugen Kendo and practice spaces are shared with other sports. Additionally, it is a little too small. From these observations, we strongly felt that increasing the number of practitioners is the most important priority for the future growth of kendo in Brunei.



2026年2月5日（Instagram）

大学生

●風神剣道との合同稽古で経験したこと

2026.1.30に、風神剣道の皆さまと稽古をさせていただきました。温かく迎え入れてくださった風神剣道の皆さまに心より感謝いたします。

●見えてきたもの

ブルネイにおいて剣道はまだまだ成長の途中だということです。ブルネイ剣道連盟は存在するものの、会長と副会長の席は空席ですし、専用の道場はなく、練習場所は他の競技と共有しています。これらの状況から、ブルネイでの剣道の発展において最も重要なことは、競技人口を増やしていくことだと強く感じました。

●今後我々ができること

話し合いの機会をいただき、何ができるかを考えました。剣道を始める上のハードルとして道具が高いということが挙げられました。そこで私達は、日本国内で眠っている道具を集め、継続的にブルネイへ送るためのプロジェクトの始動をここに宣言します。



→ Exchange with local JENESYS alumni
We traveled with JENESYS alumni. They came to Japan last year for the program. They had conversations about what they did in Japan, how it was in the morning of Japan, the way they thought that they enjoyed because the style and food was so different. It was really interesting to see the local team and share with them on the day. They also came to the floor during training night market.
We had a great time with JENESYS alumni!!

→ What we found
We found that people in Brunei are not just friendly, so they have big hearts. They are also tolerant to other cultures even though it was a little bit of a challenge. We respect each other.

→ What we can do
We can not always consider that kind of Brunei people and they can give us a lot of things, some people don't know about Brunei, especially their personality.
We also can bring a touch with JENESYS alumni. We share other people's culture to know each other more deeply. Then when they come to Brunei, we will welcome them.
We have all the hope we will go in again in Brunei again.

UNIVERSITY OF
2025



2026 年 2 月 6 日 (Instagram)

大学生

●JENESYS 同窓生との交流

日本大使館にて JENESYS 同窓生との交流がありました。彼らは去年 JENESYS プログラムで日本を訪れたそうです。日本でどのようなことを行ったのかプレゼンをしてくださり、その後に交流を行いました。彼らからこたつや蕎麦、みそ汁など、日本の生活や食べ物を楽しんだことを聞き、とても嬉しくなりました。また、その日は昼食と夕食も一緒に食べました。ガドンナイトマーケットにも一緒に行き、楽しい日を過ごしました。

●気づき

ブルネイの人達はとても親しみやすく接しやすく、他の文化に対しても寛容的でした。お互いの文化を尊重し合えることは素晴らしいと思いました。

●これから

日本ではブルネイについて知っている人は多くないと思うので、私たちがブルネイについて、特にブルネイ人の人柄について、日本で伝えていくことが大切だと思います。また、同窓生とも今後連絡を取り合い、日本文化を伝え、お互いの文化をより深く知っていこうと思います。

日本やブルネイでまた会えることを願っています。



→ Exchange with the Brunei National Team
Team
On January 30, we received practical instruction in Taekwondo from Brunei's national team and had the opportunity to experience the national martial art. We participated in various training activities, including warm-up exercises, form practice, striking drills, and blocking techniques. At the end of the session, we all enjoyed sparring Jumeo together, and we were able to watch an intense and powerful demonstration match between the national team athletes.

→ What I learned
Through this experience, I learned that Taekwondo is not simply about striking techniques, but also about cultivating spirituality and respect. In particular, I felt that the concept of "control after striking" is similar to Japanese martial arts. In addition, during Jumeo together at the end of the session, I felt that the spirit, focus, and a positive atmosphere, which is better, contribute to their strength.

UNIVERSITY OF
2025



2026 年 2 月 7 日 (Instagram)

大学生

●プンチャックシラットのナショナルチームとの交流

2026.1.30 私たちはブルネイのナショナルチームからプンチャックシラットの実技指導を受け、伝統武術を体験しました。準備運動、型の練習、打撃練習、投げ技の練習などさまざまな練習に参加しました。最後にはズンバというダンスを全員で楽しく踊り、ナショナルチームの選手同士の迫力ある模擬試合を見せていただきました。

●学び

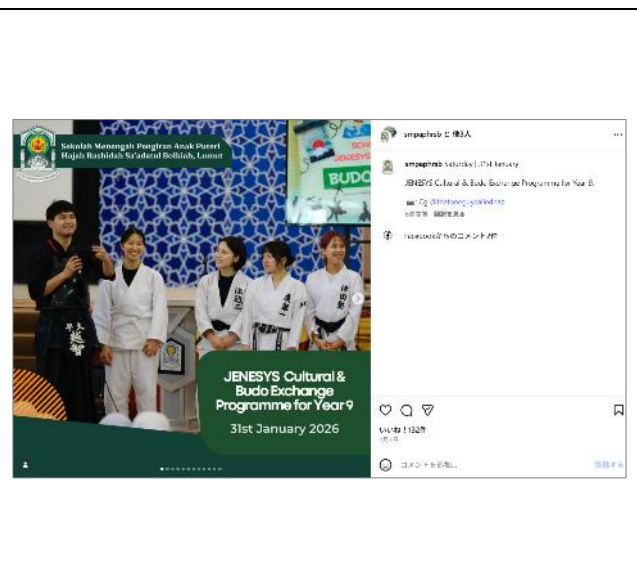
プンチャックシラットは単なる技術の習得ではなく、精神性や礼儀を重んじる文化があることを学びました。特に、打撃したあとの残心は日本の剣道と共通していると感じました。また、最後に一緒にズンバ

ンバを踊ったことで、チームが団結や前向きな雰囲気をとても大切にしていることが伝わってきました。こうした姿勢が、彼らの強さにつながっているのだと思います。

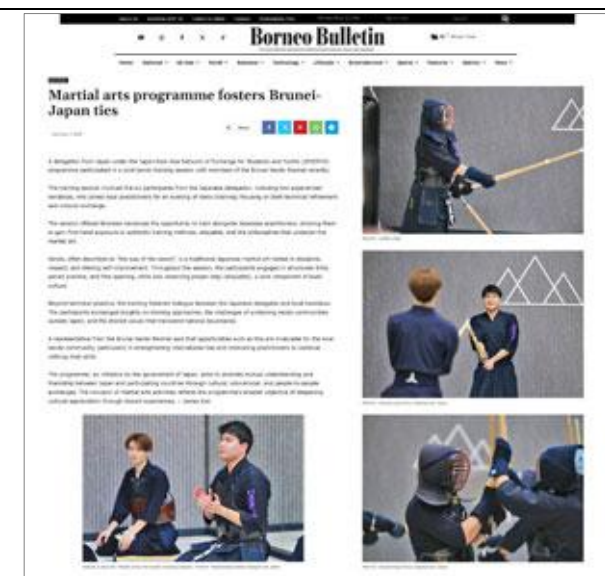
●気づき

今回の交流を通して、武術の形式や動きは異なるものの、礼を重んじる姿勢は日本の武道と共通していると気づきました。このようなブルネイ独自の伝統武術や文化について、今後もさらに深く知りたいと思います。さらに、自分自身の課題として、言語が違っても積極的にコミュニケーションを取ろうとする姿勢の重要さに気づきました。

今回、日本から来た私たちを温かく受け入れてくださったナショナルチームの皆さま、本当にありがとうございました。



2026 年 2 月 3 日（交流校ペンギラン・アナク・プトリ・ハジャ・ラシダ・サアダトゥル・ボルキア・ルムット中等学校の Instagram）



2026 年 2 月 7 日（Borneo Bulletin.com）
「武道交流プログラムがブルネイと日本の関係を深める」

6. 報告会での渡航成果とアクション・プラン発表（抜粋）

全 1 グループ発表

Reporting Session
JENESYS2025

JUDO
with SSBN

3.Action Plans

- Presentation for students in *Kagoshima*, where one of our members was born and grown in February 2026.
- Presentation for students in each universities in March.
- A presentation on local radio of *Okazawa* and *Kagoshima* in March.
- Assisting with efforts to help the Brunei Kendo Federation join the International Kendo Federation (IKF).
- Debriefing session in institutions like embassy or companies in Japan related to Brunei in three months.
- Gathering shinai and kendo protective equipment from various regions of Japan and donating them to Brunei.

【成果の発表】

◆ プログラムでの学び

- ・ブルネイの人々は厳格なイスラム教を基本とした国ですが、他の文化に寛容であり、また非常に親しみやすく親切でした。プログラム期間中大変温かく迎えていただき、とても良い時間を過ごすことができました。

- ・ ブルネイと比べ、日本は資源にも乏しく災害も多い国ですが、日本がいかにその状況によく対応できているかを改めて認識しました。
- ・ ブルネイの国内で、車から雑貨まで様々な日本製品を見て、日本の製造業の素晴らしさも再認識しました。

◆ 「武道」の学び

- ・ 日本とブルネイには、武道で学ぶ「鍛錬」「礼儀」「謙譲の心」といった共通の理念があることを知りました。
- ・ 武道が他国でも受け入れられる素晴らしいものであることを再認識しました。

【アクション・プラン】

- ・ 今回の参加者の故郷である鹿児島で、2026年2月に学生を集めて、ブルネイという国やブルネイにおける武道についてプレゼンテーションをします。
- ・ 参加者がそれぞれ在籍する大学で、3月に報告会を実施します。
- ・ 沖縄と鹿児島のラジオ番組でブルネイについてのプレゼンテーションをします。
- ・ ブルネイ剣道連盟が、国際剣道連盟に加盟できるよう応援していきます。
- ・ 3か月以内に在日本ブルネイ大使館やブルネイ関連企業で今回の訪問に関する報告会を実施します。
- ・ 剣道の竹刀や防具を日本各地から集め、ブルネイの剣道連盟に寄付します。

実施団体：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）